

高津とハンドボールと私

高校8期 (1956年卒) 西田 武彦

1. ハンドボールとの出会い

入学と同時に入部した。生来、運動能力が人並み以下の自分が運動部のハンドボール部に何故入ろうと思ったのか、今では全く思い出せない。殊更の勧誘があったわけでもない。ハンドボールという球技に思い入れがあったわけでもない。何か部活動をしようという程度の発想だったと思う。部室へ行って「入れて下さい」とお願いした記憶がある。最上級生に山中さんがおられた。夏休みに体育館の2階に毛布を持ち込んで合宿があり、大勢の先輩が指導に来て下さった。

そのハンドボールとの縁が、その後60年続いていることになる。高津のOB総会にも毎年出席させていただいているし、大学のOBの会合もある。日本リーグのプレーオフが始まってからは、毎年、観戦に駒沢へ出かけている。昨年、日本のハンドボールを盛んにしたい人の集まり「界友会(会長は元日銀総裁 福井俊彦さん：東大ハンドボール部OB)」にも誘っていただいた。

2. 浅野和郎君のこと

高津とハンドボールを想うとき、浅野を外すことができない。働き盛りで逝ってしまった。高津でも京大でも「伝説の人」の感がある。京都で行われた葬儀に出席できなかったので東京の勤務先へ弔問に行ったら、秘書役の方が「社内で一番元気な方が、突然に逝ってしまわれまして・・・」と仰り、祭壇を設えてあった執務室の壁一面に

阪神タイガースグッズが貼り付けてあって、浅野らしいな、と思ったことが印象に残っている。

浅野は大学進学後も頻りに高津へ指導に行ってくれたと聞いたし、最近、私が高津の名を口にしたとき、浅野と同時期に大学でプレーをしたメンバーから「浅野がしょっちゅう高津、高津と言っておりましたけど、高津というのはそんなに良い学校だったんですか？」と訊ねられた。浅野の大学受験の前に、「是非、京大を受験して欲しい」と勧誘に行くと当時のマネージャーから聞いた。

「浅野が生きていたら、ハンドボール界の力になってくれたらだろうな」と大学OBで話題になることもある。

3. 校風と先生方について

誰でも多感な高校時代を回顧すると心温まるものがあるのかもしれないが、特に高津では恵まれていたような気がする。幾つか挙げてみると、

ルネッサンスの頃の話として、フローレンスの町に少女がいて、この少女に懸想した若者が2人いました。若者Aは少女が父親と山道を散歩している後を付けていました。間違っ親子が崖から落ちました。若者Aが2人を救いました。若者Aが断然ポイントを稼いだと思った若者Bは、別の機会に、親子の散歩の後を付けていましたが親子が崖から落ちることはありませんでした。そこで若者Bはどうしたと思います

か？自分で崖から落ちて親子に救ってもらいました。親子はどちらを選んだと想いますか？Bを選びました。人間というのは、恩を受けた人のそばにいるよりも、恩を与えた人を身近に置いておきたいと考える一面を持っているものです。という寓話を紹介された世界史の藤原先生。

初期の秘境のドキュメンタリー映画と記憶するが、「緑の魔境」が公開されて話題になっていた。この映画の深い森林の中に湖らしいものが映写される場面があって、この場面のナレーションが「beautiful but dangerous」とあり、これに対する日本語字幕が「美しいが危険である」と出ていたのを、ここは「美しいが故に危険である」と訳すべきである、と授業中に力説されたのも、同じく世界史の藤原先生であった。

君たちは本物のドイツ語リードを聞いたことがないだろうから、僕が聞かせてあげる、と言って、授業の途中に楽譜を出してドイツ歌曲を歌って下さった、生物の橋本先生。

英語力を付けるには、参考書を読むのではなく、英文をひたすら辞書を引いて読むこと以外の方法はない、と力説された、英語の秋山先生を筆頭とする英語の先生方。東京外国語大学を卒業した同期生が今でも

「高津以上の英語教育は受けていない」と断言している。

東京での「高津中学・高校同窓会」に時々出席しているが、「高津というのは、卒業して年月が経つと、徐々にその良さが判ってくる」との声を聞いたことがある。同感である。

二年生の時に自治会の執行部役員をやらせてもらった。文化祭でのファイアストームなど、スリルがあった。丁度、日本の漁船第5福竜丸が水爆実験の死の灰を浴びたときで、自治会のメンバーとして原水爆禁止大阪地方協議会のような外部の会議にも出席した。関連して駅でのビラ配りもした。時代がそうであったのかもしれないが、こういう活動に学校側の指導は全く無かった。私としては、この時期にこの種の運動の先頭に立つ人達の発想について行けない気がして、大学ではハンドボールに専念することになった。

4. 感謝

どう考えても、私の人間形成の大部分は高津で培われ、その大部分はグラウンドを中心とするものが培地であったと思う。

以上